

自立支援部だより

～みんなで考えよう 特別支援教育の専門性～

2025年9月25日 第1号
むこがわ特別支援学校

「視覚支援について」考えてみましょう

視覚支援については、各クラス子どもの実態に応じて活用されていると思いますが、より活用していくにはどうしたらいいのか今一度みなさんと考えてみたいと思います。教務部の貸し出し図書の中に「視覚支援パーフェクト図鑑」（明治図書）の雑誌があったのを読まれましたか？すごくよくわかりやすい内容でした。紹介したいと思います。

わかりやすい 視覚支援を！

青木高光氏（西軽井沢学園さやか星小学校校長）

「ナッジ NUDGE（行動経済学）」も1つの視覚支援

男性の便器に貼り付けたハエの絵を例に挙げ、ナッジ（大きな規制や命令ではなく、人々がより良い選択をするように微妙に方向づける）について説明しています。学校内でも、床に矢印を貼り動く方向を促す、クラスの色分けのコーンに集まるようにする、給食の盛り付けのイラストを見て子ども自らが配膳するなど、様々なナッジがあります。

構造化された 視覚支援を！

佐々木敏行氏（明星大学教育学部）



①物理的構造化	②時間の構造化	③活動の構造化
環境の構造化	スケジュール	ワークシステム
その場で何をして、何を求められているか、わかるようにする	次に何をするのか、わかりやすい見通しを持てるようにする	何をどのように行い、どのくらいの量と時間、いつ終わるか、終わった後に何をするのか、わかるようにする

＋上記の構造化にそれぞれ3つの要素を入れるとよりわかりやすくなります。

①視覚的指示	②視覚的組織化	③視覚的明瞭化
作業などで何を求められているか、指示を視覚化する	順番や位置などをわかりやすく整理して配置する	色・形・大きさなどで重要な情報を視覚的に強調して目立たせる
例・具体物・写真・絵・図・線画・文字・文章等で表す ・「手を洗う」「座る」「片付ける」などの行動を絵カードで提示する。 ・作業の手順を写真で並べて提	例・道具や材料をどこに置いたらよいのか ・教室内に「学習コーナー」「遊びコーナー」「休憩スペース」などを分けて表示する。 ・棚にラベルや写真を貼って	例・どこに着目するべきなのかわかりやすくする ・重要な情報色分け（赤：危険、青：安全など） ・絵カードの背景を白にしてイラストをはっきり見せる。

示(例:おやつ作りの手順、歯磨きの手順) ・「あと〇回で終わり」「あと〇分」などのカードで活動の終わりを知らせる。 ・「静かにする」「待つ」などのルールをイラストで示す。	物の場所を明確にする。(例:おもちゃの棚に「パズル」など) ・ワークシートのレイアウトを整理して情報を見やすくする(例:左から右、上から下の順に並べる) ・スケジュールカードを順番に並べて1日の流れを視覚的に整理する。	・文字を大きく・太くして読みやすく(例:おしまい大きく赤字で) ・写真に枠をつけ矢印を加え、注目すべき部分を強調 ・「静かにする」などの抽象的な言葉を具体的なイラストで明確にする。
---	---	--

さまざまな「見える化」！ 視覚支援を

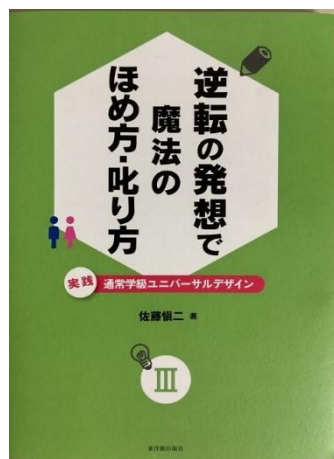
①「場所」が見える視覚支援	例:立ち位置に足型を置く、座る位置に印を置く、座席やロッカーにマーク、エリア分けのパーティションの活用、物の片付け位置
②「時間」が見える視覚支援	例:スケジュール(数個、1日、半日)、タイマー、まってカード、予定がわかる表示、終わりがわかる表示
③「気持ち」が見える視覚支援	例:コミック会話(棒人間を描き、会話や気持ちを書く)、ソーシャルドロ잉、気持ちの表情カード、怒りの温度計、
④「すること」が見える視覚支援	例:手順表、手洗い・トイレの立ち位置、着替えの表裏の目印、靴の左右の目印、ごみを掃く目印、机の拭き方矢印、約束カード、ルール掲示、
⑤「記憶」が見える視覚支援	例:振りかえりの時に活動を選ぶ、表情を選ぶ、気持ちを選ぶ、スケジュールからしたことを選ぶ
⑥「したい」が見える視覚支援	例:手伝ってカード、したいことカード・ほしいカード(場所、物、動作、遊び)、休憩カード、ちょうだいカード、いやカード

本の紹介

教材や本の貸し出しをしています。QRコードで借りてください。

↓写真がいっぱいでわかりやすい

↓絵カード CD-ROMつき↓



*上の2冊は
新しく購入しました。